

○ 本校の概要

- 学校規模……児童数:883名・学級数:27学級・教職員数:校長1、副校長1、教員36、事務1、栄養士1、カウンセラー2、講師6
- 本校の教育目標……よく考える子ども 思いやりのある子ども がんばる子ども じょうぶな子ども
- 本年の主な取組……校内研究:教科(理科)
- 特色ある教育活動……国際交流(東京工業大学留学生・東京朝鮮第六初級学校) 池雪いきいき応援隊(学校支援地域本部)と連携した教育活動 校内研究と授業観察を関連づけた授業改善

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組今後の改善策	学校関係者記入欄			
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にやがて対応する子どもを身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。 ICT機器を効果的に活用して、互いの考えを共有し、自分の考えを深める学習活動を取り入れている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	4:90%以上	○「タブレットを使うことは、自分の学習の役に立っている」と肯定的に回答した児童は95.7%。 ○「タブレットを使って、友達と意見の交流をしている」と肯定的に回答した児童は80.5%。 ⇒以上のアンケート結果より、タブレット端末を利用した授業展開はほぼ実現できているが、コミュニケーションの機会を設定することに課題が見られる。	A	○ICTの活用は適切に積極的にこなれていると感じます。「友達との交流」は、学習に限らず促進することが、難しい面もあるかもしれません。 ICTならではの「今教室にいない」他学年、他校、日本各地、外国などとの交流ができると、可能性と視野が大きく広がります。 ○タブレットでの教育が増えてきているが、児童同士のコミュニケーションの機会を増やす機会を確保していただきたい。 ○コミュニケーション力は、今後知力と同様に重要視されるものだと思います。対面での交流などで、子供の頃から鍛えることが大事ですが、コロナ禍では難しい局面も多くあると思います。今後子ども達のコミュニケーション能力の向上に尽力されることを期待します。			
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	3:85%以上	○「タブレットを使って、友達と意見の交流をしている」と肯定的に回答した児童は80.5%。 【改善策】 (1)各教科・領域の指導において、ICTを活用した指導実践を参考に、日頃の学習において友達との交流する機会を設定する。 (2)5・6年生の外国語及び1～4年生の外国語活動においてALTを活用を継続し、コミュニケーションをする機会を設定した授業展開を今後も継続していく。	B	○タブレットは、調べ学習をしたり表現をしたり、とても活用されていると思う。PCを使用するの慣れに感じていたが、他の意見を知り、意見の交流をもつ事も大切。タブレットが多様に活用されていると思う。			
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	3:80%以上	○「学習にすすんで取り組んでいる」と肯定的に回答した児童の割合は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもつて分かっていけるという実感をもつていけることが分かる。	C	○算数少数人数などの学習能力アップを施策として、各児童の学習能力アップに期待できる。 ○子どもたちが、進んで学習に取り組む習慣を身につけることは、これからの人生にとって、とても大切なことだと思います。先生方の日頃の努力や熱意に敬意を表します。			
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	3:85%以上	○「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上	○「学習にすすんで取り組んでいる」と肯定的に回答した児童の割合は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもつて分かっていけるという実感をもつていけることが分かる。	D	○「学習にすすんで取り組んでいる」と肯定的に回答した児童の割合は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもつて分かっていけるという実感をもつていけることが分かる。 【改善策】 (1)各種研修を積極的に受講するとともに、校内研究会や校内OJT等により、指導方法の共有化を図り、指導力の維持・向上を目指していく。 (2)上記項目に否定的に捉えている児童もいるため、児童の実態に応じた個別指導・支援についても意識して対応していく。
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	3:80%以上	○「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上	○「学習にすすんで取り組んでいる」と肯定的に回答した児童の割合は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもつて分かっていけるという実感をもつていけることが分かる。	A	○「学習にすすんで取り組んでいる」と肯定的に回答した児童の割合は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもつて分かっていけるという実感をもつていけることが分かる。 【改善策】 (1)各種研修を積極的に受講するとともに、校内研究会や校内OJT等により、指導方法の共有化を図り、指導力の維持・向上を目指していく。 (2)上記項目に否定的に捉えている児童もいるため、児童の実態に応じた個別指導・支援についても意識して対応していく。
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	3:80%以上	○「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上	○「学習にすすんで取り組んでいる」と肯定的に回答した児童の割合は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもつて分かっていけるという実感をもつていけることが分かる。	B	○「学習にすすんで取り組んでいる」と肯定的に回答した児童の割合は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもつて分かっていけるという実感をもつていけることが分かる。 【改善策】 (1)各種研修を積極的に受講するとともに、校内研究会や校内OJT等により、指導方法の共有化を図り、指導力の維持・向上を目指していく。 (2)上記項目に否定的に捉えている児童もいるため、児童の実態に応じた個別指導・支援についても意識して対応していく。
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	3:80%以上	○「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上	○「学習にすすんで取り組んでいる」と肯定的に回答した児童の割合は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもつて分かっていけるという実感をもつていけることが分かる。	C	○「学習にすすんで取り組んでいる」と肯定的に回答した児童の割合は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもつて分かっていけるという実感をもつていけることが分かる。 【改善策】 (1)各種研修を積極的に受講するとともに、校内研究会や校内OJT等により、指導方法の共有化を図り、指導力の維持・向上を目指していく。 (2)上記項目に否定的に捉えている児童もいるため、児童の実態に応じた個別指導・支援についても意識して対応していく。
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	3:80%以上	○「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上	○「学習にすすんで取り組んでいる」と肯定的に回答した児童の割合は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもつて分かっていけるという実感をもつていけることが分かる。	D	○「学習にすすんで取り組んでいる」と肯定的に回答した児童の割合は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもつて分かっていけるという実感をもつていけることが分かる。 【改善策】 (1)各種研修を積極的に受講するとともに、校内研究会や校内OJT等により、指導方法の共有化を図り、指導力の維持・向上を目指していく。 (2)上記項目に否定的に捉えている児童もいるため、児童の実態に応じた個別指導・支援についても意識して対応していく。
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	3:80%以上	○「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上	○「学習にすすんで取り組んでいる」と肯定的に回答した児童の割合は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもつて分かっていけるという実感をもつていけることが分かる。	A	○「学習にすすんで取り組んでいる」と肯定的に回答した児童の割合は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもつて分かっていけるという実感をもつていけることが分かる。 【改善策】 (1)各種研修を積極的に受講するとともに、校内研究会や校内OJT等により、指導方法の共有化を図り、指導力の維持・向上を目指していく。 (2)上記項目に否定的に捉えている児童もいるため、児童の実態に応じた個別指導・支援についても意識して対応していく。
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	3:80%以上	○「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上	○「学習にすすんで取り組んでいる」と肯定的に回答した児童の割合は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもつて分かっていけるという実感をもつていけることが分かる。	B	○「学習にすすんで取り組んでいる」と肯定的に回答した児童の割合は89.7%。 ○「学校の授業はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合は92.8%。 ⇒児童一人ひとりが学ぶ意欲をもつて分かっていけるという実感をもつていけることが分かる。 【改善策】 (1)各種研修を積極的に受講するとともに、校内研究会や校内OJT等により、指導方法の共有化を図り、指導力の維持・向上を目指していく。 (2)上記項目に否定的に捉えている児童もいるため、児童の実態に応じた個別指導・支援についても意識して対応していく。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。